

1. 開催日時

11月6日(金)、9日(月)～13日(金) 13:00～15:00

2. 開催場所及び参加者実績

主要5都市 合計298名参加申込(前年494名参加)

(東京:111名、札幌:35名、大阪:77名、仙台:17名、福岡:58名)

- 今回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、座席間隔を空けるため参加可能な人数を限定し、東京は2回に分けて開催した。
- 不参加者にも向けて説明内容を撮影した動画を作成し、HPに掲載した。
- 開催が中止になることも想定して、事前の質問を受け付けた。

3. 説明内容

①分別基準適合物の引取及び再商品化概要:90分(全体概要25分、各素材の個別説明65分)

②その他事項:30分(申込注意事項、合理化拠出金)

4. 質疑概要

(1) ガラスびん関連

・特にありません

(2) PETボトル関連

Q:有償拠出金が上期と下期で大幅に変化した理由について

A:下期はコロナの影響のみならず、バージンPET樹脂の市況や輸出の低迷などの複合要因で再商品化製品の販売が難しい一方で、引取り量が大幅に増加し、需給バランスが崩れたことが影響したと推測しています。

Q:リボン状ラベルへの対応について

A:蒸着ラベルで金属探知機に反応するなど、除去に手間取るが、PETボトルリサイクル推進協議会のガイドラインでは禁止にはなっていない状況。引き続き検討されると認識しています。

Q:入札の詳細情報の開示はできるか

A:落札の結果に加えて、一般競争入札によるか指名競争入札によるかの情報を開示しています。プロセスに関しては公平・公正・厳正に行っていますが、その情報は開示していません。

(3) 紙関連

・特にありません

(4) プラスチック関連

Q:令和元年度の合理化拠出金が見込みと異なって拠出された理由について

A:一部の再商品化手法において落札単価が見込みよりも低下したことによって、現に要した費用が想定額を下回ることとなったためです。

Q:実施委託単価が前年度より上昇した理由について

A: 計算式の分母に当たる「特定事業者等からの再商品化委託申込見込量」が低下したこと、計算式の分子に当たる「市町村からの引取り見込量」が増加し、また、運送費や残渣処理費の増加や再商品化製品の販売難などで分子が増加すると見込まれることから、単価が上昇しました。

Q: 加熱式たばこのたばこ協会での回収に一部企業の製品が入っていない理由について

A: 現在までもアプローチを行ってきましたが、引き続き取り組みを進めていきます。また、コンビニ等の販売店での回収についてもアプローチしていきます。

(5) その他、全般への質問など

Q: 申込み量と引渡し量との大幅な乖離に関して

(①本年度の乖離、②本年度の状況を見込んだ来年度の申込みでワクチンの開発などで状況が変化して乖離した場合)

A: ①令和2年度の年間を通じた大幅な乖離については、当協会への連絡をお願いします。

②本年度の状況を見込んだ来年度の申込みで、ワクチンの開発などで状況が変化して乖離した場合も当協会への連絡をお願いします。状況を考慮して対応いたします。

Q: 申込み量と引渡し量との大幅な乖離に関連して、分別基準適合物を廃棄物としてではなく、資源として考えられるような取り組みのお願い

A: 主務省に情報を伝えますが、自治体ごとの解釈により全国一律にはなっていない状況も理解をお願いします。

Q: 申込書様式1の記載する責任者はどの時点の責任者でよいか

A: 申し込み時点の責任者を記入いただいて、市町村長や組合長が変わった場合には連絡をお願いします。

Q: 業務実施覚え書きの変更点の確認

A: PET ボトル下期落札結果の通知方法の変更のみです。

Q: 保管施設でコロナ感染が発生し、操業が停止になるような場合の対応について

A: 当協会に連絡をお願いします。可能な対応を検討します。と同時に、交替勤務での工夫などで、濃厚接触者を減らす検討をお願いします。

Q: 製品プラとの一括回収に関して情報があればお聞きしたい(会場質問2件、事前質問4件)

A: 今後のプラスチック資源循環施策の基本的方向性を踏まえた主な施策については、産業構造審議会と中央環境審議会の合同会議にて審議が始まっていますが、現在は、具体的な制度の骨格案が示される段階までには至っておりませんので、お答えできる情報を持っておりません。

以上